

平成30年12月25日（火）

件名 防衛副大臣等の来庁について

概要 本日、原田防衛副大臣が来庁されましたので、概要をお知らせします。

記

1. 日時：平成30年12月25日（火）11時10分～11時27分

2. 場所：岩国市役所 政策審議室

3. 来庁者：防衛副大臣 原田 憲治（はらだ けんじ）

4. 応対者：岩国市長 福田 良彦（ふくだ よしひこ）

岩国市会議長 藤本 泰也（ふじもと やすなり）

岩国市議会副議長 貴船 斉（きふね ひとし）

5. 意見交換の概要

（1）原田防衛副大臣の冒頭発言

（12月6日に発生した岩国基地所属機の事故について）

○ 先般、12月6日に高知県の室戸岬沖で発生した岩国飛行場所属の米軍機の墜落事故について、事故の詳細等については、現在、米側において調査中だが、今後、米側から情報が得られた際には、速やかに皆様方にお知らせする。

○ いずれにしても、今回の事故は、地域の皆様に大きな不安を与えるものだと認識しており、防衛省からは、米側に対し、安全管理の徹底や再発防止に万全を期すよう申し入れたところである。

（空母艦載機の移駐完了に関する謝意）

○ 空母艦載機の移駐については、平成18年の、米軍再編日米ロードマップにおいて、岩国飛行場への空母艦載機の移駐等に関する措置が盛り込まれ、その後10数年に及ぶ諸調整を経て、岩国市を始め関係自治体の皆様の御尽力のお陰で、完了したものと受け止めている。

○ これもひとえに、地元の皆様方の御理解・御協力の賜物であり、福田市長、岩国市議会の藤本議長、貴船副議長のリーダーシップに、厚く御礼申し上げる。

○ また、岩国飛行場には、空母艦載機の他にも、KC-130やF-35Bが配備されており、これらの受け入れに関しても、改めて、御礼申し上げる。

○ 防衛省としては、岩国飛行場周辺の皆様が安心して安全に暮らせる環境を確保することは極めて重要であると考えている。

○ いずれにしても、今後とも、岩国飛行場に関わる各種諸課題について、しっかりと対応してまいり所存なので、引き続き、御理解・御協力を賜るよう、よろしくお願いする。

（2）国に対する要望（福田市長の発言）

（12月6日に発生した岩国基地所属機の事故について）

○ 今回、KC-130とFA-18の事故があり、海上自衛隊をはじめ、関係者の方々が懸命な救助捜索活動をされたが、若い6人の海兵隊員の方が殉職された。大変、痛ましい

ことだと思っており、心から哀悼の意を表する。

- 最近、相次いでいる米軍機事故について、11月12日にF A-18スーパーホーネットの墜落事故、また先ほどの12月6日のF A-18とK C-130の事故があったが、住民の不安と懸念が非常に大きくなっており、大変遺憾である。
- 市としては、こうした事態は、見過ごすことはできないものであり、航空機事故が二度とおこらないよう、また、基地周辺住民の不安や不信が払拭されるよう、今回の事故に関する徹底した原因究明と早期公表、機体の安全点検並びにパイロットなどの安全教育の徹底等、実効性のある安全対策を実施され、事故の再発防止に万全を尽くされるよう、改めて強く求める。

〈安心安全対策について〉

- 米軍構成員等による犯罪・交通事故の防止に向けた教育訓練の徹底などについてもよろしく願います。

〈騒音対策について〉

- 艦載機の移駐が完了後、4月と5月には、苦情件数が過去最多を記録するなど、騒音増大に対する市民の懸念は非常に大きくなってきている。
- 騒音状況について、本市においては、その実態把握に努めているが、国におかれても、詳細な状況把握を実施され、実情に即した、住宅防音など十分な騒音対策を講じていただくようお願いする。
- とりわけ、防音工事の対象を事務所、店舗等へ拡大することについては、市民から、強く求める声があり、今一度、市民の想いを受け止めていただき、より一層の御検討を、お願いする。

〈地域振興策について〉

- 今後とも、本市の実情に十分御配慮いただき、安心・安全対策はもとより、基地の存在そのものの負担と、我が国の平和と安全への貢献に見合う地域振興策について、目に見える形で措置し、これに応えていただきたい。

(3) 市の要望に対する回答（原田副大臣の発言）

〈12月6日に発生した岩国基地所属機の事故等について〉

- 米軍の運用に当たっては、安全の確保が大前提であり、防衛省は、累次の機会を捉えて、大臣をはじめ様々なレベルで米側に対し、安全面に最大限配慮するとともに、周辺地域に与える影響を最小限にとどめるよう求めてきている。
- 今回、日米同盟の下、地域の平和と安全に貢献していた尊い命が失われたことは大変残念ではあるが、他方、本件事故や、先月、沖縄の東南東の海上で発生した墜落事故は、地域の皆様に大きな不安を与えるものと十分認識している。
- いずれにしても、本件事故を受け、防衛省は米側に対し、哀悼の意を表するとともに、改めて、安全管理の徹底や再発防止に万全を期すよう申し入れたところだが、引き続き、皆様に不安を与えることがないように、しっかりと取り組んでまいる。

〈安心安全対策について〉

- 米軍人等による事件・事故はあってはならないものであり、防衛省においても、米側に対し、隊員等の教育、綱紀粛正や再発防止を強く求めてきたところだが、引き続き、皆様

方の御理解・御協力を賜りながら、しっかりと取り組んでまいります。

〈騒音対策〉

- 岩国飛行場周辺における航空機騒音の状況把握については同飛行場周辺において、航空機騒音自動測定装置を23台設置し、同飛行場の騒音状況の把握に努めているところ。
- 岩国飛行場周辺の住宅防音工事については、全国に先駆けて平成23年度から騒音の著しい80W以上の区域を対象に告示後住宅を実施しており、さらに、今年度から外郭防音工事の対象区域についても、80W区域に拡大するなど騒音対策に鋭意取り組んできている。
- 事務所、店舗等の防音工事への助成については、まずは、住宅等の騒音対策を着実に進めていくとの考えの下、様々な課題がある中で、今後どのように対応するか検討してまいりたい。
- いずれにしても、防衛省としては、岩国飛行場における航空機による騒音は重要な問題であると認識しており、今後も同飛行場周辺における住宅防音工事を着実に実施するなど騒音対策に鋭意取り組んでまいります。

〈地域振興策について〉

- 安心・安全対策、地域振興策についても、引き続き、岩国市と十分に調整しながら、しっかりと対応してまいります。

(4) 原田防衛副大臣の発言（まとめ）

- 私共、防衛省としては、国の安全保障のために必要な施策を進めるに当たっては、地元の皆様の御理解と御協力を得ることは大変重要であると認識している。
- 本日、皆様からいただいた御意見も踏まえ、今後とも、地元の負担軽減に取り組んでまいります。

6. 市長コメント

本日、防衛副大臣からは、空母艦載機の岩国飛行場への移駐や、F-35B 及び KC-130 の受け入れについて、感謝の意が示されました。私からは、まず、続発している岩国基地所属機の事故について、徹底した原因究明と早期公表や実効性のある安全対策を実施され、事故の再発防止に万全を尽くされるよう、強く要請しました。

また、移駐後の岩国の現状を説明し、騒音対策について、とりわけ、市民の要望の強い事務所、店舗等の防音工事への助成について、より一層の検討をお願いすると共に、米軍人等による事件・事故の再発防止、地域振興策の実施についても要望したところです。

空母艦載機移駐完了後、約9ヶ月が経過し、その間、墜落事故の発生や苦情件数が過去最多を記録した月もある中で、市民の皆様には、騒音増大や航空機事故などに対する不安や懸念が大きくなっております。

こうした想いをしっかりと受け止め、市民の皆様の不安や懸念が払拭されるよう、今後とも、安心・安全対策の更なる充実に向け全力で取り組んでまいります。

担当課 岩国市総合政策部基地政策課
岩国市議会事務局庶務課

TEL0827-29-5024/Fax0827-21-3572
TEL0827-29-5190/Fax0827-21-1001